

## 3T3-L1 細胞脂肪分解促進試験

3T3-L1 細胞は、脂肪細胞へ分化誘導されることで細胞内に脂肪滴を蓄積する特徴を有することから、脂質代謝の細胞モデル系として脂質代謝研究などに広く用いられております。分化誘導後の脂肪細胞を用いて、蓄積した脂肪に対する分解促進作用を、遊離されるグリセロール量から調べます。

### 試験方法

3T3-L1 細胞を脂肪細胞へ分化誘導した後、脂肪細胞に蓄積した脂肪滴が分解される際に生成する遊離グリセロールを定量することにより、脂肪分解率を測定致します。未処置対照の脂肪分解量に対する試験液添加時の脂肪分解量から脂肪分解率を算出致します。

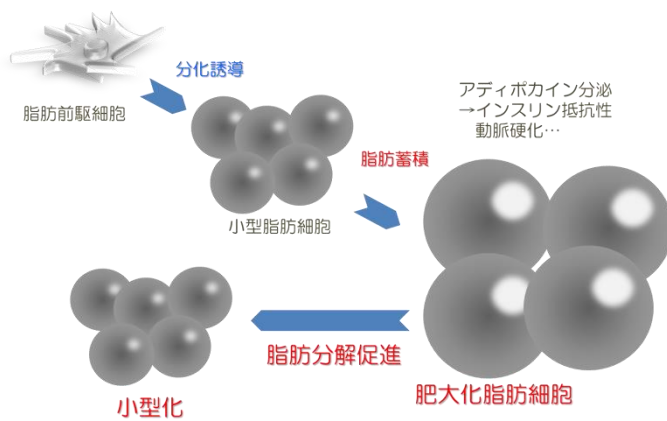


図-1 脂肪細胞の分化

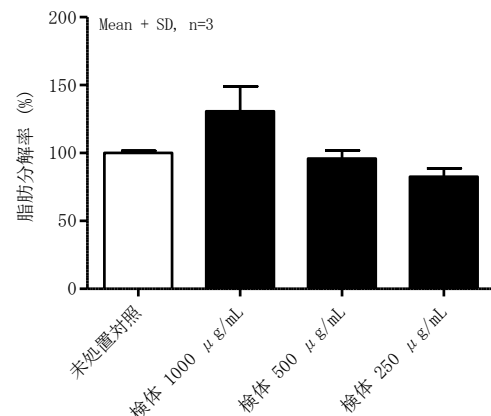


図-2 試験結果例

### 検体必要量

必要量：約 10 g (10 g 未満の場合はお問い合わせください。)

### 注意点

水に不溶の検体は試験をお受け出来ない場合がございます。また、いずれも検体数や検体の性状などにより変動致しますので、まずはお問い合わせください。

試験設計など、詳細につきましてもお気軽にご相談ください。